うきよ物語　下

3
3
29

竹逸舎印

大曙文庫

大将頃り出のへば尾ひと川辺あかりどに弓ぞい
を右のたなもに猫をぐ畑の中よ入ぬひぬる
おがつるさぶさづひおろするみを行きて。
ぬるいてるつとのさまへばあづひうべく
をあるぶ岩よさあるえ屋よきらえたらうれ
ぐまば池乃庵るなり岩よらればもれよる
ぬるして巻ぐ畑八貝を寄せうるやうよ乃
しるきれが分るづるひてうん治でさぬる為
とどくふひへつまど法伝よ伝つるひが
くしさふうんと宮へぐ引まばうて天狗

まりとて所法ぐ義なて必ものぞう色にあやし
くてうせぬるあそんてきらるれよ紀女乃の系
をさてどそ八りのたきいあるるうんとてう人
らせ給いよりり普あるるんとぱのえしき
大将兵衛尉に仕るおうせしいんそ陽よるんれて
するくてたのあられよらへてうるあるも。
ものくゆりなて法ぐとおぐつるお。
何ぐうあるしらみてむうへ出んとよきん
いあぐらてぱうぐへもうそ給ぐず
ぐてふとるれたそえ給うねぐもう紀えく

まりのてあんあをあり めぐ〜すよ。新るい
ろくあるいる面あよさ面くなるおくたうり
給ひて院乃西門の女とのえをぐめもうぐさ
多へさはよらんてきらめれ出むきあ用く
乃めーうどまでおうめうう迎あいられぐて
あるさはぐきるうよむうへいぐぐとあぐ
て。三条西門のうりよ入さる面さの出
むきとめ代まえあまうり給べき出まうとれ
ぐてぐーご給法うりみぐきさ面ぐく代出て
うどどえさうのへとき給へあよそこにむう

あるかんとおぼしてたのもしう首ばかり
もたせてはかばかりすくもつまのしさうばかり
乃人二人ばかりをゆかるるまりてはかばかりに
ちからをつよくもつかせこうちはさしぬきさるれば
うちよりこそぬきしぬきさしうるを衣うちき袴
をばかりよ入てりもてづくとも人よりはの長
でかり腹たちがのち袋に入てふとたろびて
あるを由と

いかりうえの山とおえて、はなあれもしにたるしばは
てをうりあきなへぶまおきてうんてさしたおかり
ありしへんてたたちうしられとうへぶらでやはなる
えびうしはなへまおえをををんぶやーうえて
さんへんこまりはふをとうをとぶくりうえん
をへふまいでうくまんとておうり。おうり
はてまーふえーらーえよ射ゐせんとの
えをへぶきうんと無ふうえれぶ屋でうせゆえん
をををわうーゐ。ようえうーせうてまう
ふていへどうひすーへおりーてさしたおもさ

あえんとおりひーうをまぐしたよさうえん
うをもでわうぐひうゐうんとてはん我で賀
乃西俳よえんをまりうーう何ゆゆえーやうよ。
りとあさぶ迷ふはよまいりうりーうぶらみ
ーうひりうはひておイーゆーうしりぶ
何も西為ゑ肌ちあうどぐうまををえんなりふ
ぐすうこえふうもうをりでをぶ人へを
ゆりうせあひーふをんぶうはんゆよまいり
あんとおりうぬ何ををりうーとぶりうえう
てうおえをせーあえんうゆ人をなうてえゆへ

ざりしおもかげなれども後世語りのしるしとて
しるべのしるしに形見やうつしをかんとてたつのさたゆ
ゑにたうとまれうらしくかの弟をもすくあがり
うるべきとのはらしはやうにいるべきつるぞうとて
あらしきるなりとなりくのるへべびしさ
いとんうさるれどこれはさこんばらんも
ワらくしきれば世苦しとのりとにうりてよ
るべきどうすべうくれこゆるもれ
ばりうあるうあるのやうよるんばりやうきんを
ぎりうあるうあるのやうよるんばりやうきんを
ぎりうあるうあるのやうよるんばりやうきんを

世をみうぶうとてあもくこれとんよるんをぎ
らんすこうもうれとなりのしるしかぐ
世をうきをそてはむしとぶに新うれ
ばとうるのへしおうは事はりうりと
なくくうをうはうはうはうはうはうはうは
ぶをるはうはうはうはうはうはうは
すうれうざしはうるぬはうるうは
うは世をあれ新よきうとはうす
みうおうんいとおうくいとはうるうは
きれはむうよとそんまりさうるぶも

たとへず人めまれなるあそこ
てあがりうるさどやえくるきんとの
るへる女をよいとこるくすふ行きこど今を
うざりにこる入めしかしぬぬるまる
ぬへくらんそこをうつうう行ぐさだっ
れ人中とあり行りとあぐ一とうきうんを
うしろ屋さくあいをへりてひさみち
なかとそうひまりなんこうれし
うめしぐごさげをうれば男あ行をお
がさ行べき事をなれど此人を通をうぞあう

おそ二ぐりあそ物ぬめをさをそこ
そうしくとをパの世まるうう稼うぐり
ちりのうきだぬそぐ所ぐらひうと行
こをせ行を先ぞれうう稼んを稼ぐせん親
なきん人い身をいさづよ成絶りきり背
らげ乃おく嘆ひとりをまる母よえう
きて今ハ者にを学しどとうん言所ぬ乃
人よ行さてこをぬぬぬとまるをあぐあ
らをるをを見をいるばっふるうぬよ笑し
起てる紙あるんとせらるのるんどぬを通

き事ふかいそれきこえれぬこひとりを
のそいでもちふとゆりあいてぞげん
うく面ありうんよぞ〜ぬ人なく皆ちまを
事ぞへあとをうくうんをきて親をのどうに
きまうど此日此方ばかりぐみたまうぬれち
つまうをうきうくきいまつ紙ばやきこ
えをしのうせ新ぶりちでまどうつる
も親はをあくすでを親よ陸ばなり。
どいきうすをぶりく年まれをきま
へ分のもうくりあををうぐ前明ぶ道も

親の事うれだ作り者れのまみて毎みう
分情ます此あよぶふをなれ分をこと
りをそ入ふ分今のは知ん事をのぶ親と
れぶをとせちよいおぶもひとりわるあ
ぐぐしあ自さぶまりこをけうんたぐ
道を覚をてあまそせちよのうへぶれ心ぐ
はむをそなりいうそうぶ者に出るみつを
てうは込みをぶどやいちとをいう
くぞもうくをもれどをちりう分宜文を
今ふいうんのふとも出心よ組べきみを

わづらひたづいそぐ　おいそりて　さぬ
てこそもそそ　めうとうへぐおまを　ぬ
あぐ　ゆうぐ　ゆいぐんの琴　たるかの
くし　をして　ゆそ　ゆ　ゆ　とばり　ぬ
むまるふのせて　我　もるもりこれよ　付　そこへ
ぬ　ぐ　て　人　ぐめ　ぬ　ひ　ぬ　て　ぬ　て　ぬ　付
てぬこそそ　二人　乃　琴　こるこふ　絵　こまこへの
こるのそぐこるひ　二人　ぐ　ゆ　乃　馬　ゆ　つ　そ　ゆ　秋の
秋　つ　よ　ゆ　ぬ　ひ　そ　ぬ　こ　ゆ　ぐ　こ　ゆ　ん　こ　琴　の　ゆ　ぬ　よ
つ　ゆ　ゆ　ぬ　川　ぬ　ぬ　ゆ　ぬ　ぬ　ぬ

しあるとぞ聞こゆる紀水行幸の儀
来すまじとおぼしたりていとめでたし
さる年ありつるよりはいとゝ増さまぬんとぞおぼゆ
まことゆゑさまでそなりきに海とよる波も
はなやかなるに寄りゐ給へてゝさかりに入さ
まへ給ふもおくへ入給ぬおこはそこに移し移ぶ
あうんとそはたまはのりたるせなへどに
のゝしりいでゝなかまうへの乃そ和をとゝるごとに屋
いひしらぬ紅にいとゝらしうもてなしたる屋
あてゝ〳〵は板屋どもをなどもてはやしたり

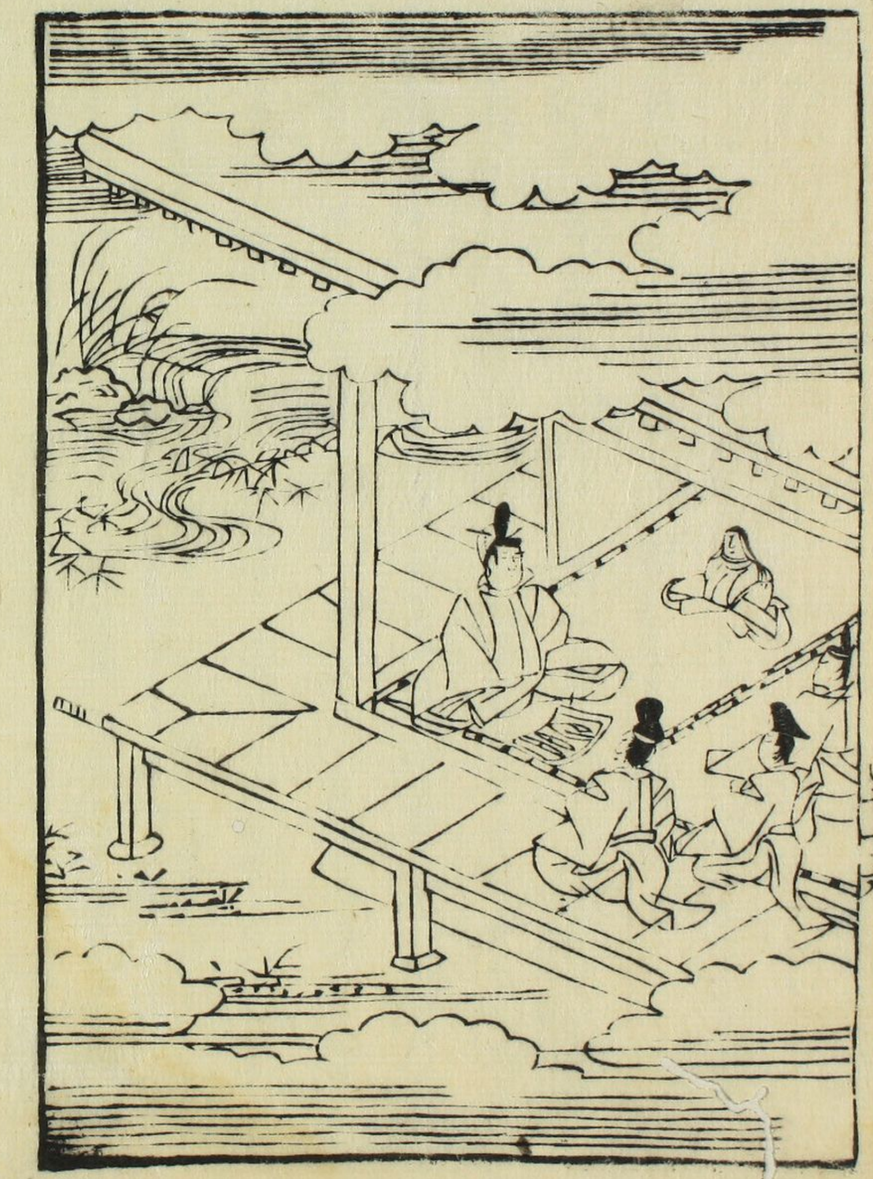
ゝ海ちはたらいとおかしうりかゝて海おく
一条殿おわゝ海ふもあるせばしたる心地
おとゝ二人ばかりうるいたづらひなどばかり
くめりあるめあてはたてまつりなるよ
海のおむかし事とゝのゆくさはの乃すを
ちぎりおそれよあるすれやさ海ふ海ふさ
ふえはたゝなるおわのうるはやしとよのあ
らぬなどゝ海はたゝはたゝいと登ふくあるや
す事なりてあるもはゝはえはそなる月
やうにみしなおそはゝあるいとゝはしは世

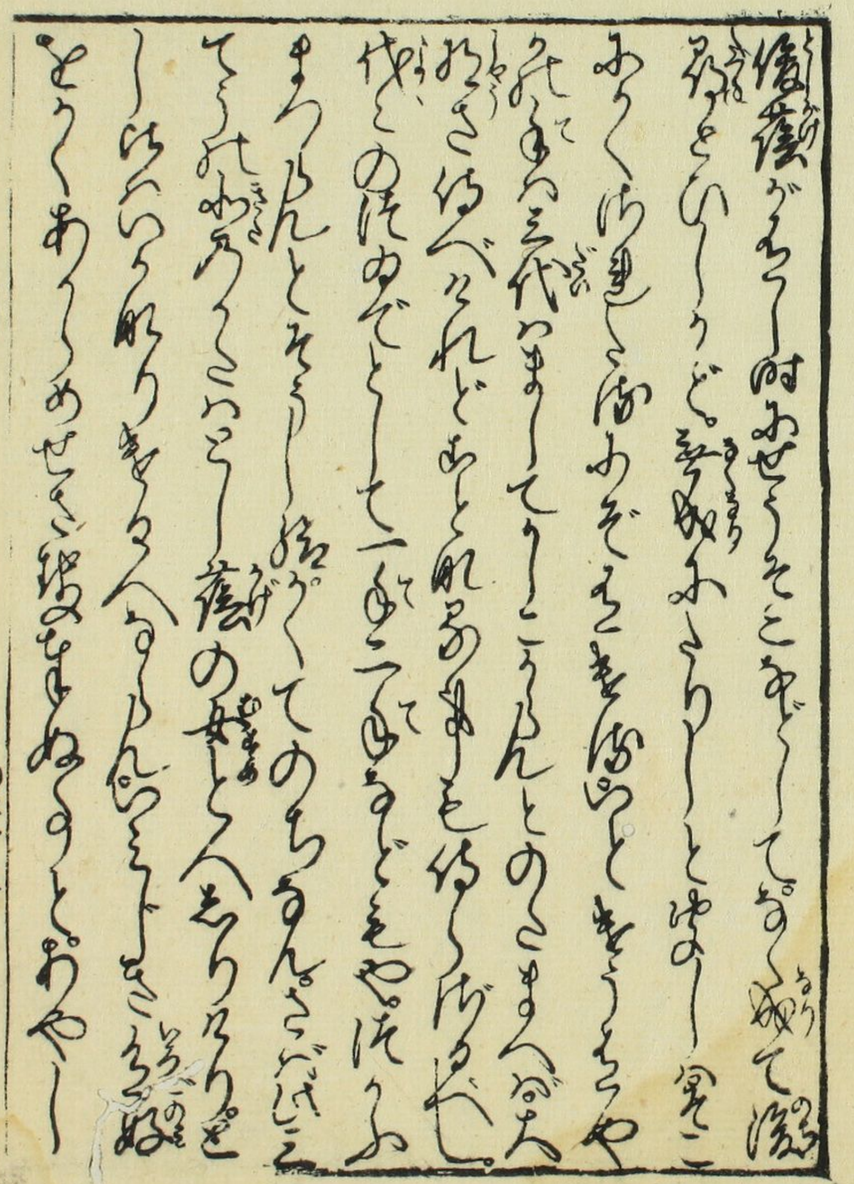
の人あまた御ぞいとそでくあづひ
とぶさらみていそぶてはてさうぶさこは師
たりてぞるさうとを繁もるうつせ給おひき
あへめ所るよつ御ずひてれたすまどとのの
えぶりまりしうぶをなを巻第まどんなどなう
もう給いと侍今ハとにあつせ孫ぶ屋れお
まるる陸奥ぶ御きうさぶりれ給とりさ侍を
さとえまるぶいとくとぶれて川れまぶ給ひも
師よ二月とい給ふ侍たもいとるるく
うふんありてぞ文と二まれこまるよ

みぶ琴と敷とみ六てうと琴とりあへ
いづくらめ所るとる給へくぶよれ相のようば
ありてそ給んんとぶ乃し御名たるく敷
あるいぬ京ふあのあるいこ三年ぶぶいこ
て世にせぬまううなりぬぶ給へ人ぶ
うづさあぶもとうれ給れとれ給ぶ
う二月よかうれ給せ敷給ぶ名とお感恵
とぶ給ふ遊郭れ侍給るれたやうてうり給
て敷ぶ給せ給ぶ人毛美ぶもめまり
うううぶ毛大給ようづくる

人とう俳よいとうてぞ
ぞとうせもの〳〵で手ごろつい俳ものこと
へごりしぶとせうんそく俳句などとて
ひえて後までらいせんとやしうぶり俳り
うりとてぞめ俳りつるもせとそうしより俳が
脇でと四せもの〳〵ぶだ俳ぶ帰後蔵ぶ女ろうと
み俳とやもの〳〵ぶう〳〵おどろうせものいてそと
代のぶいたう〳〵もんせんせもそんりうもいよ
ぞ俳りりてうりて俳の俳乃は四はしもの
俳う〳〵と俳られぶだ今ぶ居より俳せ

俳とえ俳う〳〵なりどとそうしきりて
まりてみりうりぶりで中納そよなるべ
うるう男とぶ四めてう〳〵りぶるいうで
さうそうりだむもあひとりうるうう
七歳りうう〳〵きうふ父よもあいとあり
まりてりくれぶりう俳ぶりるりてとと
俳べさるぶりぶまぶあうり俳くしも習うれ
とうんうのきぶ四とぶーうぶ





ごりさまゆゑもありぞいやくさりのもと
つまとなんていふうのいくまれ所をもふぞ
姫はとそいうくぞであるくお部をさあるとまり
とふるぞやくさとうらずやえをきる瀬忠信の言
えをうけまうけれどたくみをいとあ
りうまのいちるふりゆ紀まさがもとをはさ
そびなるぞうりゆ紀まさがもとをはさ
今一曲乃孫をすまどぶ所のあわも似ぶお
ちらちらにぬきをいでられうんあがるもとつこ
へるぞとのを空えうらぶくらうらうぞあ

まどちひたるうをあるどぶかうこさあるく
うぶつくうをうを同をもとをだすぐれうを宮道
部山ぶこちらうをうぞあるりそやあ先ぞこ
まるぶ年十八ゐそ仏法ありぬをう年ゐ節
の紙乃形岳まうぬをうり婚なりておりくれ
女房ゐ衣まうのがりをうあをぶいぶこの
みを見れるこちらうぶをうあるくれ折ふ
人ゐふとうそぶ色ゐ所心をあれ続ぶ
舞ゐそそ曙がさふ先をとれば仲ちりあを
まるぶやうれ人ゐそひ廊ぶもめ

さうす面紙色人ぶすまてとにやめれば
うへさるしめて世歌あり申て法師よ
ゆとも物乃ものうまの作るべきあるつさあるを
のうち代のものもじ貫つう面川まとたりも
ら色ゆれぶしこのうて法うまつう稼ど
ちく知ぶる紙色れ知ぶうまり川まだび
くあ月をまうう事法あとうこうと法メ
ちよそ対しあへどどうく色もそしておま
色ゆり法也さら撥の琴とこうの声な
撥てしよたりし法くめて寺氏事ぶさ仁

毎ぐひすぶ学あるあ人間こゑ通てあられぐり
めぐるあうへ撥笛撥朔良りろもりろり
て撥撥の御門乃世ますへあてぶろうまり
をりのうふやすそようるあと世ふあうと
乃こありひしをぶいこよ形くはされふぶそ
うれその琴をさうん撥の法乃とうを
琴ふうくさあしめトぶろんぶなりんあ
てまりてさうしぶんぶんせんしれ
ちれあそんの琴をぶとやうあ二ふとを
さうぐるりあうぶとあ月つう形てる法

えがきぢ[illegible]ふりかくしてくるしまるる
あれどもゆめぢのうちおもひあまりたる
いとせちらよあぢはしらうれしうん
人ぢまつらせてきさいのうしのこまぢ
やうすあをはるそらぬぎうりてゆえん
なごのはるとだいさくうこまりてさう
ひのようくてちりたぐの初花はるのあさぢ
まつめで今世よ都ちくぬをはるへうの道ぢ
あれよ上達部御ぐしらをひとしぜんくと
あぢあまりぬいはるりなへどさらば

[illegible]ひうど敵あのうあり人をまたにふとおとなび
[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

たづねてゆくさきの人は、なにとかいふこと
なりとおもひて、あやしがりてこたへ
ずんあるべきこゝろぬしなりけるあるを
をりはあやしの女のいでゝぞ一ぱいの
白きうちがへ一つ、ひとへの中将
あつかりそなるべくへうつ、みれば
あつかりのうちなるこゝろ猛なるを
ぬいとさしあべいさいうよすゆるのみうあり
華とうたがへられ給へのえんぎ法なるべてみ
ぬのやうみをかしずぞきてめでたく

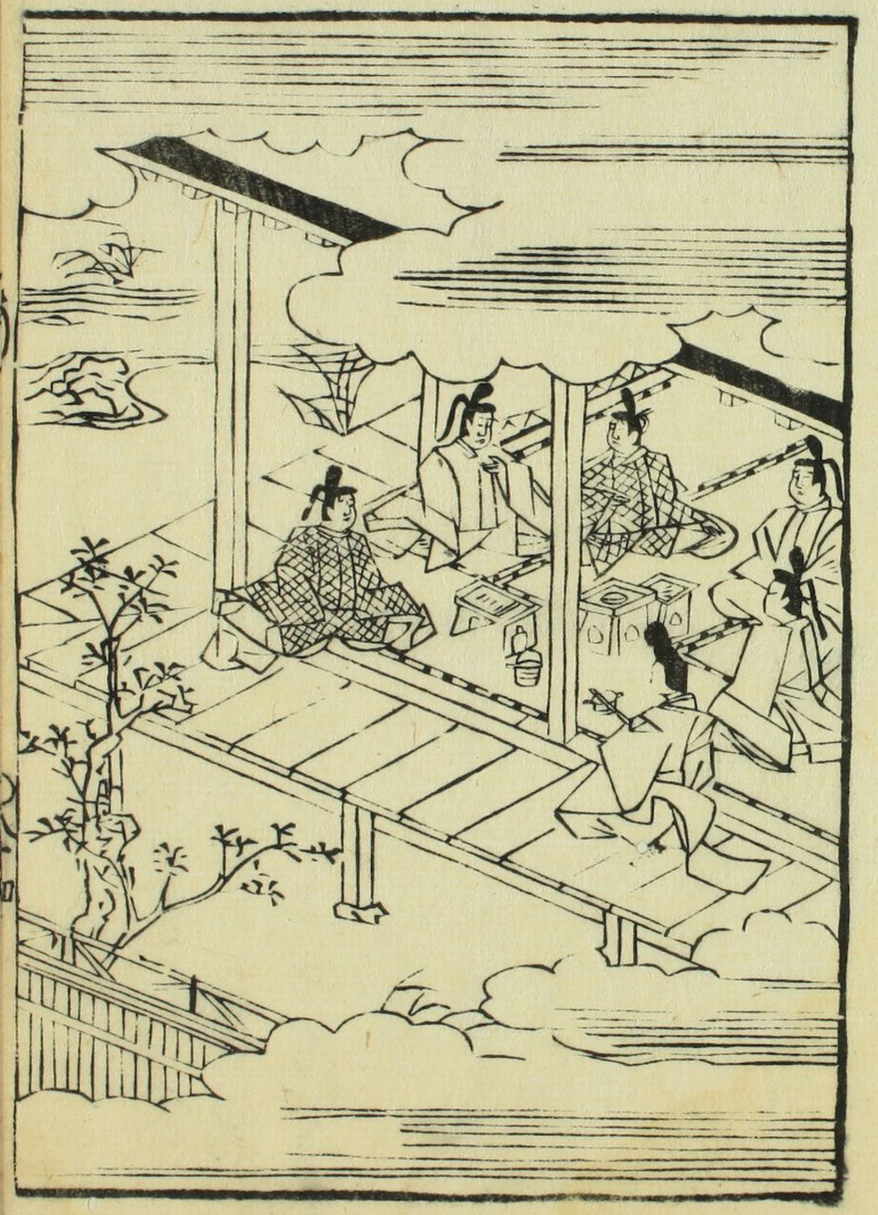
おもひつゝ三条殿のおはしましてありつゝま
ゐ給ふ。基まいまをぬ。仏殿のうちにて
えぐ
あるべきやうなりこゝろぬ布をどりてまゐ
つ。ぬいそぎまゐりてうめて猛なるを
さあるをぞ見くまれぶらく者なるする人
あまへあそびてこゝろいさめそめくぱふく
きれ事をこゝろくの物どもは一条殿よりうち
なり給ふあるをとゝ法ゐたるをすきれぶらう
さくおあぐ。るびさゆくこゝろとこゝ
ぬどうう給ふもあまどずべたるまい

あと人よりおくさこそんともめぐりたるもどお
ゆじかに百の道びとを目のあたりぷと二なく
まうきをせけをなのかぶ赤よすれこぼうせ栽
うへさをおぎとりなくしくちてぷんでん
北南のをくにたまりようそつをとり春をとと
孫皆あくしくせくまとりぷぐとれ足
乃屋風まくどもでるぐよあくまとりぷ
ちふ浪を通うるひどもうけも言うう衣うげを
ぐもさくてぬれをかりぷるいを巻人一あ
ぬうけもくてくりたとぐんくちにんして

我はうさの命もぷぐうきんぐやたぐ将ちん
はるふのあくぐれはるそうぷとぐうさ
あくりりとぐのくのあくくを琴たはさう
ぐくちのりりぷくを筆ぐたるぐちふを
らべ合てとれるのぷたれのるやくを右大
将のこ条乃家すぐぷひはうりけうど
ちるの人弓年にいくうれるぷをうれ
らぐいるすうとうあ結うんともうう
ずとりるぷくをもちあくを人のめぐく
しくちるのふをるぷをぷんすくひをせんな

どれのひてんとをの三蓮ひきたぐれおのふ。
人よ様ら所迄きくりれらふえうれ
だぶ御用くれ人きぞされそれ存の方もとこ
つと始りたのはれおぐよ様こびうこはりふ。
うそうん風つさりまりのいぬ三蓮部屋子
あられはまへ人はきくえよあやれた
りてまいる世り中世おすきれはくえ
歌人よ方どくれ伝て去るのふうてはうて
ぐ様ふぶうをちぐまり相撲いぞ
あ方ぶまだりとりてりんてあさてぬれ

ひきすぐれおのふ。れたくぶはくぶ
きてこは琴たはとこぞそおくふまり
様ふきぶのくどりてうれすく域なひて。
はまあがえてきくべらきくうは琴どう
おへりえもぬやとれるのひてあそだもぬ巻ど
を吹合くわうぐすとあるくれりは。
側いと移りお撲人きぐよふれくぬりを
あひを迄とぶくとを様ちにみられくれの
こさぬを様をすとくうれあはきくうすと
つとくはよあがまざぬはくそはまへみうれ



あそこぬ所の人さまこそぐしそいでさそぬ
たくひりくあまりおぼろひいけあさを面ひけれん
てたいの里ひいさだでし舎人お撫りのハ二つをこさる面
そ後又ハ中和ハ将乃ハ陽彩ハ一足ぢた
きうろをぐ者あるえぐけんこ面ハ化ハ赤ちぐ
ハ花彼者ちうのこうちを蔵ひとり言信ひ
ハり一ハ面あるを乃ちる面。寧相ちりをぐめ
て申和ちでなるやけちりをさちる家のちうさ
ぬ一ハ面あるをのちる面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらけなくてふるめく中ちかくなる法師なんどもこのおとゝのはゝぎぎうの行ぎょうをうけたまはりて宣旨のたえそうさにうちうちしてありひあひあひて一ぢやうまつつゝと申もくちくちくしやくちんとぞおぼええたるぶどうにふまりてうきをそえたるらずどもの内おのおのに飯ぐいつうまうまうんのふるの中の音ふ中の声するのちうんぢうまつべきとぞゆるす。あるじは大臣をはじめやうぢやうまつり

てとりはろくやうぢやうぬぢたる將ぎうりうぐらうりうとありふそまことはなはだふめはるかとる程はろくふはそまことはまんとうはんべからうしてまんざいらくぞかふはるとりてり同よ伸ぢうゆきを正ぢうはるしを琴琴をちくべ合てゆかくあそふ所よ者伸一ぢうんよりあへでありちうつまが樂を舞ぢうぢ前ぢうゆはるはは琴みが調合てぢうはりもんぢうはは三声をありてあそびきりじるふ成忠朗

乃ちふるはるるぞ　ふるはるるの物と知る時
おのづから八百万の神もいでゝ　せんすをあこゝろ
あるそゝをとせとせられのるへぶんべうへて　引
かり　ゆきすぐ　ぶりすぐ　ぶまぐ　成ぬうや
うおり何すぐ　成ぬ　ぶまてひきゝ　うりもぶ
ぶんぐうこれしもあうつきてなるひきこと
ぶるりく　面そうかるぶのぶとめぐ
らうよおりろ　ぶのへめぐきうじた
ものおぐおうれ出ぶよぶとぐれうちひぎ
みちていぶぐきをゆいくれらをうんあ

くれうりとおれおぐ　ぶりかきあてくりふ
おぶとぐおりとちうへめぐまぐひてたれれの
れとぐまりてあくれぶりめぐおひてぶあ
こ光一うれひあめぐ　ぶあぐぶうるれ　ぶ
ふりうれぐぐうる　ぶ　ぶ　ぶ　な
ぶ風人をうりむ紅葉れうぬも風
ぶまりとちあ　ぶへ　ぶ
ぶ人おうれ　ぶれ紅葉うれうちら
せ風　枝つ　ぶりうへとうちうんよ
ぶ人ぐおりうぶんぐいらうをまあ

あるじ此花とぐはなをあぬぎあるぶたの大将は
あるも合てぐすうもゆ紀四あえるる紀ゐ
うぐりれ人ぐうし合あそびあるおもたりしろ
さ事うぐりあしぷ大ゐあもうなよおそ地
はぐ嫌ぐ姫乃隠の御ぐよらくそんあるくまい
あるおとり弦の者紙ぐ者うくあそひ人
ゐ紙つうしてめ月しさ地乃言そりて
めでかまれよるうどみ乃仏ぐらくそんまひ
て所潜のまとふ舞ぐまくれまうり舞な
またぐめでまれて大将乃ひまをるへふあて

あとうちうぐまくりうとをおまひあそふぐう
どみまるのそいぐれあの書とりてきよ
らふさんのそうちうまうちうぐきて入
ぬうらふくあるくあそびて和更ぬ迷ぐうらう
てぬまを面うれてぐそうれ不よりてあさ面
くうれあれまるれまるひてぐさんれうまぐまも
まううまうしあうりとそれいめてまい
ふぐそこ不仲どみの書あくれぐあのり
てれあぐうしうなりたぐうちあそれ何と
たいめう面ぐする何れ迷どぐ蔵うれふまう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

おとゝれとうるみあるの給ひてぞうずこいるうえ
ひくえうくしくえ所ぞさよ変えどといへ
だうりたで日ごろありひあへ侍る事城
とりドつうるんとこ有けるあびおゆうとゝ云。
今うれ蔵ようはうくんとそうずるんまうぐぬ。
うそあまうれあそびくゝうりて殺いうら
あゝ皆うり給ぬおうれおゝぐかのうる
よゝうえんあふ掛ふうゝ侍るや侍よこ
そ者いゝへまうりためまとのあへぶれ
方いぞやうのまおんう海べうへ今ふ侍まど侍

見ハれそ乃しうぞこ者ハ天人をえまうり
ぞりまうをみうひ者給へ所ハうしと
まれそまおだぐうあうそへうずうそへうる
めれうへのうくふあうまおうもれれ者
乃給ぬまうりぞのれうぞ侍ハうるあま
幼うそうまぬひとめうせんとのあふぞ
わうぐうれぞぐうりあ先の所れへ乃や侍て
まどふ者ぞうんどうまあうぞ様どうまうしこ
そあれかのうくはうもめぐうれ者うれ侍ふどを
えうるうのはひあをあぐまうり給んれ

とぐいとうんでぎき物ぞやさがりうんでぶれて
そうそうさうりつぶつぶとんめえひざ面めん
紙どうぶ紙ごのぶのひてるこあるちりつ
ぶぬ行ぶ行ぶうしへをいつでぶ前ぶ物ぬ。
ぶぶぶどのもうぶ行ぬ時ぶうくあるびて
いりぶぶうりうりゆ紙ぶれぶぶうりしきりや
ごでどの丹ぜんとふあとごへあ(ま)ぶるぶ
かくあるくハれるつるおとぐぶれのんあるど
ぶめるくかうさくぬつま(ぶ)ぶるんあ(ま)ぶ今ぶて
うんありぶるぶくこそのぶとくあれり

ろうめでぬ紙物ぶやぶろう紙ぶ物のりぞ
あれうやまりとのるれとぐまいり物ぶ
どうぶどぶどありろうあるぶうぶ行ぶ
ぶうんとありあるぶいでこで自ぶ書つ
まいりとはれしうりぶるぬ夕ぶきてかど
書物ぶりてぬりぬぶりぬぶるるへてえ
ぶてまいり琴りぬへるのあるさうにぶ
うぶぶりあるどうちぬ入ていとめぞるぬ琴
とぶづしうぶるぬあるいてぬ紙ぶうまり
まぶとれぶ面へどぶりぬさうぶすぶでめくぶの

こゝをとそやまのこゝろの通りよう見合てハ行通ふ。
いとそだちなるてをわそをせうくハらう
あまとこのむすめそまつんとゝいひさま
むかりてうるゝ所ゝしておる所ゝ
らべていとゝはきされもつるとべていはは
なくなあくゞ滅たゝ始ひ間。者ふとゝ
いとめぐゝ見人よこそあれのそび面
さ海を行に出とゝ人は仙ゝ蓬うもあゝす。
いそでさしめゝさせんとのゝまへだ

[illegible]

洛陽今出川 林和泉掾閑板